

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

立川 真衣・教育認知心理学・博士後期課程1年

国際学会：Experimental Psychology Society Meeting

参加地・期間：University of Essex（イギリス）2026年7月1日～3日

発表題目：Competition of self and other perspectives in visual perspective taking: A latent-trait MPT modeling approach

成果の概要

2026年7月にイギリス、エセックス大学で開催されたExperimental Psychology Society (EPS) Meetingに参加し、「Competition of Self and Other Perspective in Visual Perspective-Taking: A Latent-Trait MPT Modeling Approach」と題したポスター発表を行った。本研究では、レベル1視覚的視点取得（Visual Perspective Taking: VPT-1）において、潜在特性Multinomial Processing Tree (MPT) モデルを適用し、時間制約下では認知制御の低下に伴って自動的な自己視点への回帰傾向が強まることを示した。従来は自動処理の有無を中心に議論されてきたVPT-1について、制御との相互作用をプロセスレベルで定量化した点を主な成果として報告した。

EPSは、実験心理学の基礎的・理論的研究を重視する学会であり、認知過程を情報処理の観点から理解する研究が数多く発表されていた。会場では記憶、注意、意思決定、社会的認知など幅広いテーマについて活発な議論が行われており、ポスター発表では発表者と参加者が長時間にわたり議論を交わす姿が印象的であった。若手研究者から第一線の研究者まで距離が近く、自由に意見交換できる雰囲気が形成されており、自身にとっても国際学会で研究内容を深く議論する貴重な機会となった。

自身のポスター発表では、同じポスターセッションに参加していた博士課程学生と互いの研究内容や研究計画について議論したほか、数理モデリングを専門とする研究者から、モデル構築やパラメータ解釈に関する具体的な助言を得ることができた。また、視覚的視点取得を専門とする研究者とも議論する機会があり、モデルの理論的妥当性や今後検討すべき実験デザインについて多くの示唆を得た。特に、潜在特性MPTモデルをVPT課題へ適用した点について関心を示す研究者が多く、認知モデリングを用いた分析手法への国際的な需要を実感した。

また、口頭発表では、Aston Universityの博士課程研究者によるレベル2視点取得に関する研究を聴講し、発表後には互いの研究について議論する機会を得た。同研究では、実行機能や注意などの一般的認知機能と社会的認知との関係を神経科学的手法も含めて検討しており、自身の行動実験・数理モデリングを中心とした研究との共通点や相違点について意見交換を行った。レベル1とレベル2視点取得では研究手法や理論的課題が異なるものの、認知制御や注意が社会的認知を支えるという共通の問題意識を確認でき、今後の研究を発展させる上で有益な視点を得ることができた。

本支援により国際学会への参加および現地研究者との交流が実現し、研究成果を国際的な場で発信するとともに、第一線の研究者から直接助言を受けることができた。今回得られたコメントは、今後予定している実験計画や認知モデリングの改良に反映するとともに、国際共同研究の可能性も視野に入れながら研究を発展させていきたい。また、継続的にEPSへ参加し、視覚的視点取得研究および認知モデリング研究の国際的ネットワークを広げること、本研究分野へ貢献していきたい。